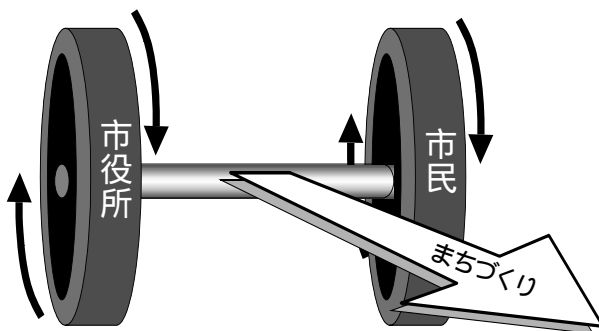


**「協働のまち宣言」 公共は、市民と行政が車の両輪になって担うもの。それが基本的考え方です。**

## 協

働は、市民と行政が、公共の利益のために協力して働く、という意味です。三浦市政の基本指針である第4次三浦市総合計画(三浦ニュープラン21)では、「協働」について次のような考え方を示しています。



「まちづくりを進めるうえで、市役所と市民は、いわば車の両輪のような関係にあります。双方がその役割を果たしてこそ「人・まち・自然の鼓動を感じる都市みうら」は実現します。市役所と市民それぞれが、前例や因習、甘い危機感から抜け出して、創造性を発揮し、お互いに切磋琢磨しながら、連携して行動することが必要です。

公共とは行政(官)だけが設計し、役割を担うのではなく、広く住民、事業者、市民活動団体等の市民も一緒になって担うものであるという、まちづくりの原点に立ち返り、各種の地域課題に対する行政責任のあり方と公的なサービス・事業の提供手法のあり方を行政と市民の役割分担という観点から見直します。(行政革命戦略 5つの宣言のうち「協働のまち宣言」より)

## 民

民間活力とか、民の力といった言葉がよく使われています。小泉首相も所信表明演説の中で、「民間にできることは民間にゆだね、地方にできることは地方にゆだねる」と言っています。行政、官にはできないこと、不効率なことがたくさんある、という反省に立ち、**公共の利益を守り、高めるためには、民間、民の力を存分に発揮してもらわなければならない**、という趣旨です。そうした考え方で、いわゆる「民営化」や「外部化(アウトソーシング)」といった行政経営の手法が流行しているわけです。こうした手法を実践することは、**民間における事業機会(ビジネスチャンス)を増やすことにもつながります**。さらに、民間が自ら、自助努力をする必要性が高まれば、**市民の“公共心”や地域社会の結束力、支え合う人間関係が濃いものになる**ことも期待できます。

## こ

のように、民の力、民間活力の重要性が高まっていることは、誰もが認める傾向でしょう。そうなってくると、**行政が今までと同じカタチであり続けるのは合理的ではありません**。

民の力と協働して仕事を行う体制としくみを備えた行政へと変わることが必要です。**公益の一部を民の力に委ねたときの心配事(倒産、サービス水準の変更、むやみな値上げ等)を解消するのも行政の新しい役割**となってきます。(次号へ続く)

